



# 野鳥の 不思議解明 最前線 #98 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2013

地上で食物を探すクロジ。彼は勝負師タイプ？ それとも堅実派？ 撮影●内田博

## 私がギャンブル好きになった訳

～ビギナーズラックがその後の採食傾向を決めるイエスズメ～

「植田くんはギャンブル好きだから」先日ある研究会のあとの飲み会で言われました。「堅実に投資をしていて、ギャンブルはしていないつもりなんだけど…」。自分ではそう思っているのですが、同じこと何人もの人から言われるんですよ。競馬好きの人も、馬の動きやこれまでの成績を見て、これぞという馬に「堅実に」賭けているのでしょ、パチンコ好きの人も釘をみながら、これぞという台で打つのでしょから、(特にFXなどは)ギャンブルと言われても仕方ないのかもしれない。思えば、それほど大きく儲ける必要はないのに、リスクの高いものの方に投資してしまうところが、ぼくにはあるので、確かにそういう性向はあるのかも。

では、どうして、ぼくはこうなってしまったのでしょうか？ ひとつは環境かもしれません。ぼくには養うべき家族はいないので、守りに入る必要はありません。でも同じような立場のK山さんは、ぼくより堅実です。環境だけではなさそうです。

イエスズメにもハイリスク・ハイリターンを好む勝負師タイプと、ローリスク・ローリターンを好む堅実派がいるそうです。イスラエルのIlanさんたちは野生のイエスズメを捕獲し、実験的にそのことを調べました。飼育ケージ内にハイリスク・ハイリターンの餌場(緑色の砂の餌場の1割に80個の種子が入っている)とローリスク・ローリターンの餌場(黄色い砂の餌場すべてに1個の種子が入っている)をつくって、そのどちらをイエスズメが選ぶかの調べ

たのです。すると大半のイエスズメはローリスクの黄色い餌場を好み、ハイリスクの緑の餌場を選んだ個体はわずかでした。

餌場あたりの平均種子数はハイリスクの緑が8、ローリスクの黄色は1と、平均的にはハイリスクの方が得なのに、なぜイエスズメはローリスクを選ぶのでしょうか？ ハイリスクを選んだ個体は、実験にはいる前の学習期間のあいだに、ハイリスクの緑の餌場で餌を発見した経験の多い鳥で、他の個体の採食行動からの学習の効果は見いだせませんでした。つまり最初の成功体験がその後の採食の性向を決めているようなのです。イエスズメは「ハイリスクの方が得」という本当の食物の状況などわからないので、成功体験の少ない鳥は大当たりを引いた鳥を見ても、リスクの高い場所での採食を躊躇するのかもしれない。

そういえばぼくは投資初心者の時がバブル期で、良い思いをしました。リーマンショック頃にはじめてたK山さんとは違います。リスク選好以外のことで、鳥、人間問わず、最初の経験がその後の性向を決めてしまうことは多いのかもしれない。

### 紹介した論文

Ilan, T., Katsnelson, E., Motro, U., Feldman, M.W., & Lotem, A. (2013) The role of beginner's luck in learning to prefer risky patches by socially foraging house sparrows. *Behavioral Ecology*, 24: 1398-1406. doi:10.1093/beheco/art079